

□発災対応型防災訓練について

—平成 12 年度防災安全中央研修会講演録—

東京消防庁向島消防署 警防課防災係 南部 真奈美

皆様、こんにちは。ご紹介いただきました東京消防庁向島消防署の南部と申します。今日は 90 分という長い時間ですが、どうぞよろしく願いいたします。

実は最初にこの講師の依頼があった時に、しばらく悩みました。と申しますのは、昨年までの講師の方の一覧表を送っていただいたのですが、皆さん、東大、京大といった先生方ばかりでしたので、私などで大丈夫でしょうかと不安になったからです。そこで、こちらの主催団体の担当者の方に相談いたしました。そうしますと、「実務者の方も多いので実務者レベルの話でいいですよ。具体的な話をお願いします」と言ってもらえたので、お引き受けいたしました。普段やっていること、実践していることしかお話できませんが、どうぞよろしく願いいたします。

さて、向島という地名を聞いてご存知の方はどれくらいいらっしゃるのでしょうか。本日は、北は北海道から南は沖縄からいらっしゃるということですので、たぶん知らない方も多いと思います。しかし、皆さん、東京は浅草と言えばご存知なのではないでしょうか。向島はその浅草の北東部にあります。また、映画「寅さん」で有名な柴又のある葛飾区も荒川を挟んで隣接しております。そんな向島で、私は警防課の防災係というところで、事業所の自衛消防訓練指導や町会の防災訓練および災害時支援ボランティアの育成などの仕事を行っております。本日はその中の仕事の一つ、町会の防災訓練について、向島消防署が発案し実施した「発災対応型防災訓練」についてお話させていただきます。

ところで皆さんは発災対応型防災訓練という言葉を知っているでしょうか。本日は全国の防災関係者の方が多いということですので、火災予防審議会答申などは目にしている方も多いと思いますので、その方には重複してしまうと思いますが、最初に発災対応型防災訓練の定義について少しお話いたします。

定義といってもそんなに堅苦しいものではないですね。この字のとおりを読んで下さい。しかし、発災という言葉は辞書には載っておりません。またワープロで「はっさい」と打ちましても、年齢の八歳になってしまい、一般的な用語ではないようです。ですから、漢文で言えば重点を入れて、「災害が発生したら」と読んで下さい。災害が発生したら、それに臨機応変に対応していく型の防災訓練という意味です。具体的に申しますと、皆様のご自宅や職場にいる時に大きな地震が発生いたします。皆様はまず身を守って下さい。テーブルの下などに入ります。その後、ガスを閉めたり、電気のブレーカーを下げて、一時集合場所に向かいます。その向かう途上にケガ人が倒れていたら、そのケガ人の方に応急手当をしてあげて下さい。また訓練火災を見つけたら

本物の消火器を自分で持ってきて下さい。また、倒壊家屋がありましたら中に逃げ遅れた方がいますので、皆さん一致協力して助けだして下さい。そして一緒に一時集合場所へ向かいましょう。そういった訓練です。

では次に、なぜ向島消防署がこのような発災対応型防災訓練をするに至ったか、そのきっかけをお話したいと思います。平成 10 年 3 月に、東京都が「地震時の地域危険度測定調査結果」(資料 1)を発表しました。東京には 5,080 の町丁目があります。町丁目というと聞き慣れない言葉だと思いますが、電信柱に紺色で何区何町何丁目まで貼ってあるプレートがありますね。あの単位が町丁目です。

都内には 5,080 ありまして、この調査結果は、それを 1 位から 5,080 まで並べたものです。なんと向島消防署の管内で、そのワースト 1 と 2 をとってしまいました。また、この危険度では、総合危険度でランク 1 から 5 までの 5 段階評価になっておりますが、5 が最悪の評価で、5,080 の町丁目の中でも 83 の町丁目しかとっていません。向島消防署管内にはこの最悪の評価ランク 5 をとってしまったところが九つあったわけです。それを示したものが下の表です。ワースト順位、危険地区名を書いてあります。向島消防署管内の京島 3 丁目がワースト 1、京島 2 丁目がワースト 2 でした。向島消防署では、これが新聞発表になった時には、ショックを隠せませんでした。もちろん消防署の職員ですから、京島が危ないということは誰でも知っていたわけですが、「まさかワースト 1 をとるとは!？」といった感じでした。

しかし、落ち込んでばかりはいられません。そこで、まずどうしようかということで、最初にやったことは署員が町に出ることでした。そして一番危ないとされていた京島の管内を歩きました。ただ、歩くだけではありません。地図を片手にいろいろチェックをしながら歩きました。建物構造や道路の幅員、消火栓や消火器の位置、そして救助資機材の位置、それを全部記入しながら歩きました。たくさんの署員で行いましたので、いろいろな意見の人が出てきます。中にはマイナスの面だけを見てくる方もいます。「本当に戦前からの木造住宅ばかりだね、古いね。」そんな方もいました。だんだん回っていきますとプラスの要素に気づく者も出てきました。墨田区は、雨水の利用がとても盛んです。雨水の国際フォーラムも開かれているところです。その雨水を利用した、雨水を地下に 1 回溜めてポンプでくみ出す設備があります。路地尊と呼ばれています。そんな路地尊もたくさんある。また消火器の数も他より多いのではないかと。数えてみますと 100 本以上もありました。ですから、こんなに宝物があるのだから、これを利用しない手はないだろうということになりました。

皆さんは阪神淡路大震災の時の真野地区のことをご存知でしょうか。住民の方が一致協力してバケツリレーで火を消し止めたところです。わずか 43 戸の焼失ですみました。そういう話を聞きますと、私たちの理想は真野地区、うちの管内で何か起きたら真野地区みたいなことができればいいなど、あそこが理想郷になりました。しかし、そんな視点で真野地区と京島を比べてみますと、京島の方が本当に優れているんですね。先ほど言いましたように消火器もたくさんありますし、消火栓もある、路地尊もある、宝がいっぱいあって、それを使わないのでは宝の持ち腐れになってしまう。それを使いこなせる戦力を育てようということで、発災対応型防災訓練を始めました。

では、言葉で説明してもなかなか分かりづらいと思いますので、発災対応型防災訓練のマニュアルビデオを作りましたので、ここでかけてもらいます。

(ビデオ上映)

ナレーター: 皆様は防災訓練に参加したことはありますか。おそらく学校の校庭や町会内の公園で行ったこ

とはあるのではないのでしょうか。

これからご覧いただく訓練は今までの訓練とはまったく趣が違います。実際に皆様の住んでいる町の道路や軒先など生活する場所で、大地震を想定した災害を発生させます。この映像で町のあちこちから煙があがっているのが分かると思います。これが訓練の始まりです。

ここではサイレンの合図が発災となりますが、実際には激しい地震の揺れを感じたら、まず身を守るためにテーブルの下などに入ります。

住民: あっ地震だ。大きいぞ。火を消して。

ナレーター: このように持ち出しやすいところに、ヘルメットと軍手を用意しておき、自宅の安全を確認した後は町中へ向かいます。

住民: どこかしら。

ナレーター: 煙が立ち上がっているのが見えたため、その方向に一番近い道を通ろうとしましたが通行不能でした。大地震の際には道路の陥没や建物の倒壊によって通れなくなる道路が出てきます。

住民: ここは駄目ですか。

警官: 通れません。

ナレーター: 煙に向かって走りながらも、頭の中で消火器の位置を思い出しています。有事の際にとっさに消火器を取り出せるためには普段から消火器の設置位置を確認しておく必要があります。この訓練では消火器を20秒構えることによって、1本の消火器が有効に使えたことにしています。出火場所によって必要本数に変化をつけています。この現場には5分間に3本の消火器が集まりましたので、消火成功ということになり赤旗があがりました。

この女性は商店街から一本奥へ入った路地から消火器をとりだし、火点まで走りました。このような行動は普段から消火器の置いてある場所について気にとめておかないと、なかなかできません。

次の方は駐輪場から消火器を取り出しました。いざという時にすぐ使えるように消火器の周りには物を置かないようにしておきたいですね。

この場所には消火器が3本集まり、消火が成功したようです。隣は書店のようです。本や雑誌といった可燃物がたくさんある場所なので、燃え広がらなくてよかったですね。

住民: なに、これ。出ないです。(消火器を抱え、おろおろしている映像)

ナレーター: このような訓練でさえ、慌てると、知っていたはずの消火器の使い方がわからなくなってしまいます。本番で慌てないためには、たくさんの訓練を積み重ねる必要があるのです。

このように消火ハウスを燃やしているものには、実際に消火器を放出します。あの阪神淡路大震災では、神戸市の真野地区というところで、約10時間燃え続けた火災がありました。ところが、住民のバケツリレーなどのおかげで、わずか43戸の焼失ですみました。消火器は数に限りがありますが、バケツリレーならば水さえ確保されれば長時間続けることができます。今回はたくさんの子供も加わって訓練が行われました。

住民: 早く早く。来ないよ。(バケツリレーでバケツがなかなか来ない映像)

ナレーター: いま投げているのは投てき水パックというものです。これは袋に水を入れて作り、燃焼している物に投げつけて使います。この投てき水パックは紙などが燃える普通火災に対しては有効です。

声のする方に向かったこの方は倒壊している建物に登場します。周りの様子から中に人が埋まっていることがわかりました。そのため区で配置してある救助機材の入っている箱を取りに来ました。この箱はキャストがついていますが、重さが80キロあるので、二人以上で運ぶのがよりよい方法といえます。この町会の場合は箱の上に物干し竿と毛布をのせてあり、応急担架をすぐに作ることができるようになっています。

パールを使って中に入った後、畳を担架の代わりに使っています。臨機応変な処置といえるでしょう。

住民:はい、そこ持って。大丈夫か。足元、気をつけてな。

ナレーター;ここではブロック塀の下敷きとなり負傷した方の手当をしています。古いブロック塀は地震の際に倒れることがあります。避難の際には近づかないようにしましょう。

ケガ人の容態に応じて応急手当をしています。一緒に避難所へ向かいますので、歩けるかどうか尋ねて下さい。

住民:大丈夫ですか。歩けますか。

住民:歩けない。

ナレーター:歩けない場合は担架で運びます。担架は町会などで所有しているものや、毛布と物干し竿で作成したものを使います。ケガ人が歩けるようならば介添えして避難所へ連れて行って下さい。

自力で避難が困難な方を近所の方々が協力して、避難場所まで誘導します。日頃からの近隣関係が大事だということ言うまでもありません。

聞き手:どうですか、実際にやってみて。

住民女性:いや、大変です。消火器を探すこと自体、大変ですね。

聞き手:やっぱり普段どこにあるか、わからなかったですか?

住民女性:いや、見えても、消火器がここにあるって歩いていけませんからね。探す段階になると頭が真っ白くなっちゃって、わかりません。

聞き手:頭が真っ白になりましたか?

住民女性:なりました。もうどうしようっていうのが先でしたから。

聞き手:こういう訓練は実際にやってみて、どうですか。

住民女性:やっぱり真剣になりますよね。やっぱりあった方がいいです。

聞き手:どうですか、今日の訓練をやってみて。

住民男性:いいんじゃないの。ほんとう、実戦さながらだよ。やっぱり火とか、煙を見るとね、夢中になっちゃうのね。最初のうちは、最初の担架の時はそうでもなかったけど、あそこ行った時なんか夢中になっちゃってね。大したもんだね。

聞き手:普段、学校などに集まってやるのとは?

住民男性:違うね。学校でやるのは、皆な、ああいうところだから、見ているとか、そういうアレがあるけど、今日のアレはほんとう真剣だったよ。

聞き手:訓練には参加した?

住民子供:はい。

聞き手:参加してみて、どうでした?

住民子供:バケツリレーではちょっと疲れたけど、とってもいい訓練になりました。

聞き手:どこがよかったの?

住民子供:バケツリレーで疲れるところがあって、渡すんだけど、どんどん広がったりしたんだけど、走ったりしたんだけど、何とかつなげたのがよかった。

聞き手:こういう町の中でやるのはどう?

住民子供:本当に起きたら怖いと思う。

(制作, 向島消防署と出て, ビデオは終了)

実はこのビデオのことは、以前、防災専門雑誌に書きまして、興味のある方にはダビングしてお送りしますと書いたところ、全国から 180 件の問い合わせが来て送付いたしました。なお、このビデオのダビングサービスは今も続けて行っておりますので、必要な方はご自分の宛先を書いて向島消防署まで送っていただければと思います。その際には申し訳ないですが、空の VHS テープを 1 本入れて下さい。ちなみに送料は切手代 270 円が往復かかります。

いま全国から 180 本の問い合わせと申し上げましたが、その時に皆さん手紙をつけてくれました。その中には、従来の訓練では行き詰まっていたマンネリ化している、参加者も少ないといった、うちと同じような悩みが書かれていました。そこで従来の訓練の問題点を反省してみたいと思います。

従来型の訓練は、発災対応型防災訓練と対比して、集合型訓練と呼ばれています。それは学校の校庭や公園に消防署があらかじめセッティングした材料、オイルパンや消火器を使って訓練を行うものです。消防関係者以外の方も多いため、ちょっと説明を加えますと、オイルパンといいますが、これは消防署が訓練で使っている鉄でできた大きなお皿のようなもので、そこに灯油を含ませたぼろ切れを入れて火をつけて消火訓練をするものです。消防署が全部用意をして、さあどうぞと皆さんは受け身のような訓練になっていました。参加者数も年々減少していますし、また参加する方が毎年決まった方、役員の方が多いため現状でした。

そこで訓練に参加したことがない方に話を聞きました。今まで 1 回も参加したことがない方の話を聞くと、その方は女性でしたが、「だって回覧板で回ってくるけれど、いつも日曜日の午前中じゃないですか、午前 10 時から 12 時まで。それは家族団らんで遊園地に行ったり楽しい時間帯なのですから、午前中全部をつぶすのはどうも…」ということで、もっと短くて効果的で意義ある訓練なら出ますということでした。また、ある男性は以前は参加していたけれど最近は出ていないという方でした。理由は何ですかと聞きますと、「だって消火器の使い方はもう全部知っているから!。安全栓を抜くでしょう。で、ホースを火元に向けて、握るだけでしょう。それを覚えているから、もう参加しない。」

と言うんですね。そういうことを聞きまして従来型の訓練を反省しまして、実践的な訓練ということで発災対応型防災訓練を企画立案していきました。

発災対応型訓練の特徴(資料 2)として、1 番に「住民自らが防災訓練の企画立案をすることができる。」を掲げました。「発災対応型防災訓練のマニュアル・チラシ」(資料 3~5)を作ったのですが、ここでは初期消火編、応急救護編、救出救護編と分けてみました。しかし、これは町会の判断によって、この三つを先ほどのビデオのようにミックスして行うこともできますし、最初だから初期消火だけをやろう、消火器を集結してくる訓練だけをやろうとか、今回は応急救護編だけをやろうとか、自分たちで調整することができます。また、先ほど

のビデオでは 5 分間に 5 本の消火器を集めれば、その消火が成功したことにしようということで進めましたが、これも町会長の判断で 3 分で 3 本でもいいです。自分達のオリジナルで好きなようにできることが特徴の 1 番です。

次に特徴の 2 番として、「町のあちこちに発生場所を作るので、町全体が舞台になります。」と書きました。これが最初の 1 年目の「発災対応型防災訓練の想定表」(資料 6)です。右上に凡例が書いてあります。火点と書いてありますが、消防関係の方以外は火点という言葉も珍しいと思います。火の点と書いて、訓練の時に火災を起こす場所という意味です。火点 A、消火ハウス火点と書きましたが、これはオイルパンを使って火を焚いて住民の方は水バケツや本物の粉末消火器を使って訓練をする場所です。火点 A は火を焚いても危なくないところ、公園や空き地を利用しました。火点 B にパネル表示仮火点とありますが、これが先ほどのビデオで住民の方が本物の消火器を集めてきて、ただ構えていただけの所です。これは本物の消火器を使いますが、もったいないですから中身は使いません。ただ構えるだけです。これは町のあちこちに置くことができます。道路でも置くことができ、火点 B としました。それ以外に倒壊家屋を作りました。ケガ人 A、B と書いてありますが、A は歩行のできない方、B が歩行のできる方です。歩行できない方は応急担架で運んでもらいますが、実際今までの訓練中の事故の中で、担架で運んで落としてケガをさせてしまったこともありましたので、この訓練では応急手当をして担架に乗せた時点で、ダミーといって訓練用の人形と差し替えます。危ないですから、その辺は安全管理者をおいて安全をチェックさせるようにしました。

今言いました訓練想定是件ですが、想定場所は、住民の方に全部作ってもらいました。私たち消防職員ではありません。なぜかと申しますと、住民の方ですから自分たちの町の様子はよく知っているはずで、「あそこは寝たきりの病人がいるから、あの家の前で火を焚くのはやめよう」とか、「あそこは生まれたばかりの赤ちゃんがいるから、大きな音をたてられない」とか、「あの道路は狭すぎてケガ人を寝かしておくのは危ないからやめよう」とか、そういう話し合いの中で皆で想定を作ってもらいました。とても熱心な町会は自分たちで地図上のすべての道路に道路幅員などを入れていきます。消火器の場所も全部書き入れて防災マップを作っていました。道路幅員がこうだから、ここは車の通行もあまりないから、ここで訓練をしようとか。その貴重なマップは今でも町会会館に備え付けてあって利用しているようです。

昨年、町会に想定作りの時にお邪魔した際に、町会長がおもしろいことを言いまして、「普段訓練に出ない奴の家の前で、わざと火点を作ろう」と。そうすれば火が出て煙が出れば嫌でも参加するんじゃないかということで、実際にその日は普段は出ない人も出てくれまして、「町会長の作戦が大成功!」ということになりました。

次は特徴 3 番として、「飛び入りの参加も可能である。」と書きました。わざわざ学校に行ったり、公園に行くのが面倒な方でも、例えば主婦の方で洗濯物を干していたり、お茶碗を洗っていたりして、外で音がすれば何だろうと外へ出ますよね。そういう方の飛び入りの参加があります。また、先ほどのビデオの中で、投てき水バックという財団法人市民防災研究所が開発したものを投げているシーンがありましたね。あれはビニールみたいな中に水を入れて口を絞って、それを投げつけて、ビニールが溶けて消火をするという素晴らしいものなのですが、それもその日にたくさん用意をしました。そうしたら、本当は町会の方がそれを使うはずでしたが、全然関係のない通行人も「おもしろそう」と一緒にやってくれましたので、飛び入りの参加も多かったのです。また、犬の散歩をしている人が通りかかりまして、そのワンちゃんを扉にくくりつけて参加してくれ

ました。バケツリレーなども人出が足りないの間隔があいて、とてもやりづらいので、見るに見かねてというところもあったかとは思いますが、そのような方もいらっしゃいました。

次に特徴4番で、「訓練資器材は身近なものなので点検も兼ねられる。」と書きました。ご自宅の消火器なども使っていたので、訓練の時に出してみた人がいました。普段は消火器はあまり使わないものだから、どんどん奥へ奥へと入って行って、流しの下の方の方にあっただけですが、実際に出して見たら下が錆びていて、ちょうど買い換え時だったとか。そうした点検も兼ねられます。また、救急箱も子供が成長して最近使わなかったから、中身を開けてみたら5年、10年前の赤チンしかなかったとか、大事なものが何も入っていないことにも気が付きます。そういった身近なものを訓練に使うことによって点検が兼ねられるのではないのでしょうか。

5番目をご覧ください。町会役員以外の人は当日まで想定火点やケガ人発生ポイントを知らない訳です。また倒壊家屋がどこにできるかも知らないで、「震災直後さながらのリアルな訓練になる。」と書きました。実は、この時に「おもしろかった」という意見が少し出たんですね。不謹慎かもしれませんが、昨日までは駐車場だったところに倒壊家屋が突然できたり、道路を曲がってみたら火が見えたり、瓦礫を除去してみたら中から赤ちゃんの人形が出てきたり、そういった宝探しゲームみたいな、ウォークラリーのような感覚でおもしろかったよといった方もいました。子供はよく、堤防決壊で大人が苦労している時に、非日常性を楽しんでしまうようなケースがありますよね。子供と同じように、大人の中にも、普段とは違う環境に学芸会みたいだとか、楽しんでくれた方もいたようです。若い方もたくさん参加してくれましたが、今の若い人はゲーム世代ですから、楽しい訓練という意味でもいいのではないのでしょうか。

6番目に通行障害による迂回避難訓練をしたので、「住民の臨機応変な対応が要求される。」と書きました。この通行障害は建物の倒壊や道路陥没によって、この道は通れませんということで、ビデオでは警察官の人がその役をやってくれていましたが、その地域に住んでいる皆さんでも「あの公園に行く時はこの道」とだいたい決めていますよね。一番近い道を考えていますので、この道が駄目ですよと迂回をして、また迂回をするように指示されると、自分が行きたい場所にはどうやって行けばいいのかと迷う方も多かったようです。

以上、6個の特徴をあげましたが、最後に一つ付け加えるなら、警察官や区の職員の方など、他の行政機関と協力してやったことも特徴だと思います。道路使用許可もたくさん書きました。その書類の提出の仕方とか、簡単な書き方なども警察の方が教えてくれまして、普段から当時の署長どうしが関係がうまくいっていたので、そうした訓練でも話がとてもスムーズに進みました。警察官の方に後で話を聞きましたが、「ここは駄目だよ。」と通行止めの役をしていた方が、「本当の災害の時に、もしかすると警察の方が現場に早めに着けるかもしれないから、今度の訓練では僕たちも応急救護をやった方がいいかもしれませんね」と言って下さりました。警察・消防の枠を超えて一緒に訓練ができたと思っています。

次に「発災対応型防災訓練の概要」(資料7)というか、進め方をご説明したいと思います。この表は、左側が町会役員等の訓練を想定する企画者側です。右は想定を知らないで、当日参加する訓練参加者の行動を書いています。1行目をご覧ください。発災時間になりましたら、消防車や幹線道路に協力して止まってきている警察パトカーのサイレンを合図として鳴らしました。それが聞こえない地域では爆竹を鳴らしたり、あるいは役員の方の「地震発生!」という肉声で訓練を始めます。それで皆さんは職場または自宅にて身を守る訓練を

し、電気のブレーカーを切ったり、ガスの元栓を閉めます。最近の電化製品は、ブレーカーを切ると支障のものでありますので、そのような場合は、「ブレーカーよし」というだけで、実際に切らないで出てきます。そして、避難グッズを携行して、またその訓練が大々的に行われることは皆さん知っていますから、防犯上よくないので必ず鍵をかけて出てくるように注意をいたしました。

その間に1分で身体防護訓練をやめていいということにしましたので、1分後に家を出てもらいます。その間に役員の方は想定火災を作ったり、ケガ人役を配置したりします。ここで、カーフライヤーを焚いて多数の火点の表示をすると書きました。カーフライヤーというのは、車に積んである非常用緊急発煙筒のことです。教習所では踏切の中で車が立ち往生をした時にシュッとひねって火を出す、それが5分間もつということを知った記憶が私にもありますが、あれをたくさん利用しました。カーディーラーや車検場に行きますと、必ず車検の度に取り替えるものなので、たくさんありましたから、協力していただいて、それを使いました。カーディーラーさんも、それらは産業廃棄物として、費用をかけて処理しなくてはならなかったもので、その費用が浮いて助かるということでしたので、双方に都合が良いことであるとわかり、遠慮せずに頂いてきました。

またケガ人役の人を配置するために、首から下げるカードを作りまして、受傷部位、おでこや太股と書きました。また、歩けるか、歩けないとか、そうした程度を書いてケガ人役の方に道に座っててもらいます。住民の方は火事を見つけたら、とりあえず消火器を探しに行きます。皆さん、自分の消火器や自宅に一番近い消火器は分かりますが、一番近くにあると思う街頭消火器を誰かが持っていってしまうと、次に自分はどこに行ったらいいだろうと、2番目、3番目のことを考えていない方が多くて、5本集めるのはなかなか大変なことでした。次に、真ん中程にポリバケツの設置場所を書いてありますが、これは実は昨年からはじめたことなのです。町会の人自らがやって欲しいということで意見を出してきました。ポリバケツを町のあちこちに置いておき、そこでバケツリレーをやり、そのバケツの中に水を溜めます。町会がいくつかの班に分かれていますので、班対抗にしたいということでした。そして満タンになるまで何秒かかったか、町会役員が時間を計ります。その時にポリバケツといっても大きさが様々です。しかし同じ容量を揃えるのはお金がかかりますから、どうしたらいいか、皆さんと話し合ってみますと、「そうだ、区役所から配置されているリサイクルボックスはどこの町会にもあって、容量も同じだから、それを使おう」ということになり、それは網目だったので、そこにゴミ袋で内貼りをして、みんな同じ条件にして水バケツリレーを行いました。町会によってはこの訓練が終わった後に反省会をするそうで、その時も消火タイムを発表しながら盛り上がった町会もあったようです。

倒壊家屋に遭遇したら、先ほどのビデオのようにバールやジャッキを持ってきて、みんなで協力して中から人を助け出してもらいます。真ん中の欄に一時集合場所に到着したらと書き、左側の想定者側に既に作成されている訓練想定地図とは別に白地図を用意すると書きました。これは今年から初めてやろうと思っていることです。今までは町会の役員に想定地図を書いて作ってもらっただけでした。一時(イットキ)集合場所という言葉も全国的な表現ではないようです。一次(イチジ)避難場所といっている場所もあるようですが、東京では最終避難場所に向かう前に近くの公園に集まって、最初の情報確認をするところを一時(イットキ)集合場所といっています。一時集合場所に同じ白地図を貼っておいて、住民の方が見た情報をそこに記入する訓練をしようと思っています。あそこに火事があった、倒壊家屋があったと。役員に作ってもらった地図と、白地図に記入してもらったものがきっちり合えば大成功ですが、なかなかそうはいかないのではないかと思います。

す。路地を一本間違えたりすると思います。過去の実際の地震の時に、ボランティアの方が集まっても、どこに行ったらいいか、なかなか指示ができなかったという出来事がありましたから、それを反省して、その地図があれば後から来たボランティアにそれを渡して、ここに行って下さいと指示することもできます。ただ、その地図の弱点は、住民の方が自宅から一時集合場所に来るまでの見てきたものだけを入れるだけだから、完璧なものではないということです。そういう意見もありますが、完璧なものを求めたら、町会長が自転車で町内を全部回るなどしなければいけないので、そこまでのことはうちの管内ではまだ望めないから、とりあえず今年はないよりはいいから見てきただけの知っているだけの情報を入れて下さいということで、やろうと思っています。実際の際はそれを消防署に持ってきてもらいたいのですが、訓練の際は、そこにいる消防職員に手渡してもらいます。この情報収集訓練は、来年以降は、もっと全域をカバーできるものに変えていかなければと考えています。

次に、黒く塗ってあるところが解散パターン 1~4 です。これはその町会の実状・要望に応じて、こうしてもらって結構ですという意味です。昨年やってみて思いましたが、発災対応型が終わったと同時に終わらせた町会もあります。中にはその後に集合型訓練を付加して下さいというところもありました。そのため、皆さんの要望を聞くために今年の2月にアンケートをとりました。どんな訓練にしたいのかを聞きましたら、発災対応だけでいいというところもありましたし、その後に避難所開設訓練をしたいとか、消火器を使った訓練をしたいとか、三角巾をやりたいというところもありました。今年はその要望にあったようにしますので、こうした4パターンを作りました。一時集合場所で解散してもいいですが、要望があった町会にはここにある通りオプション訓練を追加します。三角巾や消火器の放水訓練などです。今年初めて行うものとして、災害用伝言ダイヤル 171 訓練を行いたいと思っています。これは皆さんは、ご存知だと思いますが、町会の方の中にはまだ知らない方も多いと思います。実際に災害が起きたらNTTの方で開局するそうですが、171 をかけていただいで、向こうから音声メッセージが流れます。録音したい人は1を、再生の方は2を入力し、それで被災者の電話番号を入れて、「僕は無事だよ」と入れたり、またそれを聞くこともできます。その訓練をしようと思っています。訓練の仕方は、消防署には模擬電話機も3台ほどありますから、それを利用したり、あとは皆さん携帯電話を持ってきていると思いますので、それを使ってもいいと思っています。’

実は私も誤解しておりまして、災害が起きるまでは171の番号をかけても「プップッッ…」という音しか出ないのかと思っていたのですが、ちゃんと、災害時と同じメッセージが流れるんです。こないだNTTの方に会って、「平常時でも番号にかけて練習をしていいのですか?」と聞きましたら、OKということでした。ただ、メッセージも途中で終わってしまいます。「1を入力、2を入力」とか、「電話番号を」というメッセージが流れます。実際にうちの電話番号を入れてみましたが、そこは該当地区ではありませんと言われたんですが、そこまでを皆さんにやってもらって、とりあえず方法を、こんなものかなと覚えてもらえばいいのです。詳細は覚えなくても、実際の時もメッセージが流れるわけですから、171の番号だけを覚えてもらえば、あとは誘導の音声に沿って入力すればいいのです。そこで終わるのが解散パターン2です。

次の行ですが、連合町会で訓練に参加しているところも多いわけですね。その方々は拠点小学校に集まりたいという要望がありました。拠点小学校という言葉も聞き慣れないかもしれませんが、子供の通学する小学校区を中心に集まっている連合町会のことです。その拠点小学校に集まると、子供の小学校が同じですから

親のつながりも PTA 等で深いものがあるようで、その人たちと一緒にやりたいということで、その時は学校ですから区役所主催にして避難所開設訓練、簡易トイレ組み立て訓練をやったり、炊き出し訓練をしました。また住民の要望で、小学校の備蓄倉庫を見学したいという声がありましたから、それも行いました。実際に見てもらって、中にある鍋釜を使いまして備蓄の米を使いまして炊き出し訓練も行いました。

最後に広域避難場所までの往復と書きましたが、これはアンケートをとった時点ではあまり参加はないかなと思っていましたが、中にはやってみたいという方もありまして、その町会は拠点小学校の訓練が終わったら、広域避難場所までの往復訓練もやります。これは一般道路を使いますから、危ないので消防職員も多く配置して安全確保に努めたいと思っています。

次にスライドを用意しましたのでお願いします。話だけではなかなか分かりづらいと思いますので、絵を見ながら、一つ一つに説明を加えたいと思います。(P.70~P.73 スライド写真)

※①これは消火器集結訓練です。右下で火が燃えているのが、先ほど説明いたしましたカーフライヤーです。それにめがけてホースを向けているだけです。この火点では消火器は5本以上ありますから、この方々の訓練は成功ということです。

②これも同じですが、真ん中のオレンジの服を着た方、若いお父さんですね。この訓練では今までの訓練よりも若い方が集まってくれました。というか、それを目指したのですが、高齢化をしているので参加者を若くしたいということで、向島消防署がやったことは子供を巻き込もうということでした。

子供を巻き込んで、子供が出たいと言えば大人もついてきます。そのためには学校に協力を求めまして、学校で子供にこの訓練がありますというパンフレットを配りました。そのパンフレットも、当時、私の下にいた後輩、とても若い子でしたが、やはり若いから感覚も新鮮で、マクドナルド形式のパンフレットを作りたいということで作ってもらいました。普通の紙ですが、縦横に切れ目を入れます。谷折り、山折りをしていくと、小さなノートになるものです。そのノート形式のものに訓練の概要や日程、注意事項を書きました。小学校低学年の子供はそれを作るのも大変だったようで、一生懸命作ったから、お家に持ってかえってお父さんお母さんに渡してくれました。このように一緒に出てきた父母の方によって訓練の参加者も若くなりました。

③これはおばあさんが消火器を取りづらそうにしていますね。これはまだいい方ですが、もっと高い位置にあって取れなかったり、消火器の設置場所が自転車の駐輪場の前だったり、なかなかとれない場所もありまして、そのことを町会が区役所に要望書を出しました。返事は、すぐにはできないけれど新規のものからとりやすい場所に変えていこうということでした。住民の声が行政を動かしたということだと思います。先ほどの早稲田の先生のお話の中でも住民の力が行政を動かすとおっしゃっていましたが、まさしくその例だと思います。

④これは病院の看護婦さんも訓練に参加してくれたという内容です。実際に震災が起これば病院と町会は密接な関係にあるわけですから、普段の訓練からこのように一緒にやっていくことは大変有意義なことだと思います。

⑤これは団地でバケツリレーの様子です。団地の端から端までとても長くて、人が集まるかどうか心配しましたが、このようにたくさんの方が出てくれまして、バケツリレーも成功しました。

⑥これはお風呂屋さんです。後ろにまきが積んでありますが、お風呂屋さんから、バケツリレーを行いました。

この時に感動したことは、このお風呂屋さんは以前に近くで火事があった水を提供したことがあるということでした。ですから普段も営業が終わってから、水は半分しか捨てないで、半分は防災用に残しておいてくれるそうです。この訓練の時も、お客さんが入る浴槽から水をくんで、脱衣場を靴で汚してしまうからと遠慮しました。そこで裏に予備の水槽があるそうで、そこから水をもらってバケツリレーを行いました。ここに木材の廃材が積んでありますが、これも倒壊家屋の際に利用させてもらいました。お風呂屋さんの良い点は、この木材をもらうというよりも、これを使って救助訓練をして、終わった後も持っていけば燃やしてくれることもあります。先ほどの先生のお話で、防災訓練も環境問題を考えよということでしたので、ゴミを出さないようにしたいと思っています。

⑦これは見たとおりマンションです。マンションで縦型の発災対応型防災訓練を実施しました。これは8階建てのマンションです。実はこのマンションで発災対応型防災訓練をするにあたり、事前の説明会・相談会に行った時に、ある方に言われたことがあります。「マンションの5階部分の屋外廊下に自転車などが置いてあって、すごく通りづらい。そういう人がいるから、この訓練は成功しないかもしれないからやりたくない」と。その時に私がお話したことは「失敗しても、それはそれでいいじゃないですか。避難する時間はたしかに遅くなるかもしれませんが。それならすべての階で避難する時間を係員がストップウォッチで計って、それを公表したらどうでしょうか。例えば5階なら本当は8階よりも避難時間が少なくてすむのに、たぶん遅れてしましますね。そういうことを書いていいと思います。また、自転車があるから消火器もとりにくいということであれば、そうした内容もすべて下の掲示板に貼れば、皆さんわかってくれるのではないのでしょうか。そこに非難めいたことまで書くとも問題かもしれませんが、結果は結果として、ただその数値を公表するだけでは問題はないと思いますし、5階が消火訓練と避難訓練に失敗したことが皆さんに伝われば5階の方の意識も変わるかもしれないし、上下階の4階や6階の方が、あそこは防災意識の少ない人が住んでいるのだから、何かの時は自分たちがやろうということになると思いますので、失敗してもいいからやりましょう。」と話しました。

⑧これはケガ人役の方が倒れていますね。この方は腕をケガと書いてありますから、トレーナーを着ている方が自分の三角巾で包帯を巻いているところです。

⑨この子供は町会役員さんの子供ですが、最初からこの子を指定して、民家の前に座させます。ヘルメットをかぶっている方は町会の役員さんで、その方が見つけて、おでこに三角巾をやっているところです。

⑩これも同じです。足のケガに応急手当をしているところです。

⑪これもカードがかけてあります。前額部の出血。実施後に反省をしまして、前額部と書いてもわからない人がいるかもしれないので、もっと簡単な表現にしようということで、次の年からおでこ書きました。

⑫これは応急担架に乗せているところです。ケガ人役は生身の人でしたが、ここで交代しています。この担架は町会所有のものですが、ないところは物干しと竹竿で作ってもらっています。

⑬これは運んでいるところです。運び方は頭と足が逆ですが、一時集合場所に向かっているところです。

⑭これは前の方はおでこにケガをして、後ろの方は腕にケガをしています。前の方は手ぬぐいを使っています。三角巾がなければ、何でもいいです。手ぬぐいでも、タオルでも、ハンカチでも、ストッキングでも、ネクタイでも、あるものでやっていただいて、ブランケットで保温して、一緒に集合場所まで向かっているところです。

⑮これはロープを持っているのが、わかるでしょうか。ロープを使って避難誘導をしています。本当に地震が

発生した場合、特に高齢者は慌ててしまっ、どうしていいのかわからなくなると思います。

そのような時にこうしてロープを使い、前と後ろに防災リーダーがついていれば、みんなと一緒に避難できると思いますから、この方法はなかなか良いのではないかと見ていました。

⑩これは倒壊家屋ですが、うちの職員がベニヤなどで手作りしました。こうしたものを作ってもいいし、以前に一回やったことがあるのは行事の時などに張る普通のテントの足を利用して、わざと片方の足を倒して斜めにして、簡単な倒壊家屋を作ることできると思います。

⑪これが今の倒壊家屋の内部です。ここに「ふくらはぎ出血」と書いたダミー人形が置いてありますので、それを手ぬぐいで応急手当をして、これから担架に乗せようとしているところです。

⑫これも同じです。抱き上げているところです。入り口の奥に消防職員の足が見えていますが、安全管理をしているところです。

⑬これは四軒長屋がありまして、取り壊す予定でした。それをこの訓練に使いたいということで、当時の係長がお願いに行って待ってもらいました。こうした建物を壊す時には一気に壊した方が費用は安くすむそうですが、その不動産屋の方がうちの職員の熱意に負けて、「そんな訓練をするなら提供しましょう。とりあえず前日に半分壊しましょう」と、いう形にしてくれまして、ここで訓練をして、次の日には壊して更地になりました。放火されないように夜に見回ったりもしました。二度手間をかけてしまいましたが、住民の方の協力があって、このようにできました。

⑭これが今の倒壊家屋の訓練現場ですが、さすがにここは危ないので、消防団員が主に訓練をする場所にして、地域の方は消防団員が助け出した人を応急担架で運ぶ、または応急手当をするという訓練にしました。

⑮これは災害時支援ボランティアの方が一緒に訓練をしているところです。災害時支援ボランティアの方も、消防署に年に数回来ていただいて訓練をしていますが、やはり基礎訓練だけになってしまいます。救助資器材の訓練をしたり、ホース巻きをしたりしていますが、このようなところに一緒に参加していただくことによって総合的な応用訓練ができると思います、参加していただきました。

⑯これは先ほどのパネル表示火点のところ。これはすごく立派な物ですよ。実はこれはNHKに作ってもらいました。なぜNHKかと言いますと、新聞発表で京島が危ないとなった時に、京島に出て歩いていたのはうちの職員ではなかったんです。NHKの方もドキュメンタリー番組を作る目的で町中を歩いていて、そこで消防職員と偶然出会い、うちがこんな訓練を計画していると申しましたら、それを全国放送にしたいということになりました。映像用、テレビ映りもいいので、このような立派なものを作ってもらいました。あまり数はありませんでしたが、消防署もその後この道具が欲しくて、でも作ると費用がかかるからNHKに紙だけをお願いしました。それで自分たちで色を塗り、ベニヤを切って、お手製の同じようなパネルを作りました。これは家が燃えている絵ですが、道路陥没の絵なども使って、迂回の訓練に使いました。左側のカーフライヤーを立てる台座もNHKの方に最初作ってもらいました。これもその後、消防署でも作りましたが、予算がかかります。

ですから、こんな立派なものは必要ないと思っています。去年は子供の粘土をジュースの空き缶につめたり、最悪の場合は何も立てないで、カーフライヤーに火をつけて道に転がしておいても火と煙は5分間続けますから、道具は何もいらぬのかもしれない。

⑳これは先ほどお話しました消火ハウスです。本当のオイルパンを使って火を燃やし、住民の方がバケツリレーをしているところです。これは先頭の方の絵です。これは周りが危なくないところを選んで消火ハウスを設置しました。ここは道路幅員がとて広く、隣も民家ではないから OK ということで、消火ハウスの火点にしました。

㉑これは天水尊と言われているもので、墨田区ではとても盛んです。雨水を桶に溜めて、管が下に下りてきて、ここに溜めて使うものです。普段は庭の水撒きに使ったり、車を洗ったり、このタイプは各家庭で備えている場合が多いです。区で作るものももっと大規模で、受水槽を作り雨水を溜めてポンプでくみあげて使うものです。

㉒これはすごく良いと思いませんか。住民の方が考えたのですが、車椅子の方で、車椅子がぺちゃんこになってしまって避難できなかつたらどうしようと私が相談に行った時に、近くにスーパーがあったんです。スーパーには買い物をする時に子供を乗せるカートがあります。あそこに大人を乗せるのはどうだろうかと相談しました。赤ちゃんや子供が乗る場所にはお尻は入らないけれど、お買い物のカゴをのせるところにお尻だけ入れるとか、板を渡したりしましょうかと言ったら、相手の人が考えまして「もっといい意見があるよ」と。台車を使って、それにパイプ椅子を置いて、ヒモやガムテープでまいて作ろうという発案で作りました。町会に事前指導などで伺って、いつも思うのですが、最初は教えてあげようという気持ちで行っても、逆に向こうに教えてもらうことがとても多い気がします。

㉓これは炊き出し訓練で、最終的に拠点小学校に集まった時に備蓄倉庫のものを使って炊き出し訓練をしたところです。実際にこれを使っておにぎりを作りましたから、ちょうどお昼を兼ねて食べて、訓練だけではなく、地域のコミュニティの場にもつながればと思います。子供たちも大人も楽しんでいました。

㉔これは区民消防隊が放水訓練をしているところです。向島管内には、27 の区民消防隊があり、このようにポンプを持っています。防災型といっても、さすがに町中で、放水できる場所が少ないので、このように学校の校庭で行いました。

㉕小学校に集まった時の、上から撮った絵です。いつも見慣れている煙ハウスや消火ハウスがあります。ここでは集合型訓練を行いました。これは梯子車の上から撮ったのですが、この日は梯子車も出して、子供たちも訓練に一生懸命参加し、水バケツリレーにも参加してもらいましたから、最後にはご褒美というか、楽しいことと抱き合わせで訓練をするのもいいかなと思ひまして、梯子車も出しました。子供達は順番で梯子車に乗ってもらい、上空で歓声を上げていました。

㉖これは広い場所でオイルパンを使って消火しているところです。

㉗これも防災型が終わった後に、三角巾で集合型の訓練をしているところです。集合型の訓練も防災型を行った直後に行くと、皆さんの意気込みが違います。復習を兼ねてやりますから、いつもの訓練もマンネリ化されているとは言いましたが、和気あいあいと全員で確認をしながら行いました。

(スライド終わり)

次に今までの訓練の経過をお話したいと思いますので、「防災対応型防災訓練の経過」をご覧ください(資料 8)。向島消防署が防災型を行いまして今年で 3 年目にあたりますが、この表はそれをまとめたものです。1 年目は、地域危険度で危ないと言われたところだけでやったわけです。2,600 世帯の連合町会内で 838 名の参

加でした。この数はその前年に比べて1.5倍になりました。前年は500名ちょっとでしたので、やはり発災型にしたから1.5倍になったのだと思います。

昨年は、発災型を管内全域に呼びかけて39町会で実施しました。その理由は住民から、「うちは地域危険度はそんなに危なくないけれど、同じタイプの訓練をやりたい」という声があったからです。

それで、消防署の中でも検討会を開き、同時多発型で管内全域でやろうかという意見と、地域危険度で次に危ないと言われている八広という地区だけで京島のような訓練をしようか、いろいろな意見が出ました。どちらもそれぞれメリットはありますが、検討会の結果、一部地域重点型をやろうということで、京島の次に危ないと言われている八広では京島型の訓練を行いました。あそこまで大規模にはできないですが、倒壊家屋ももっとこじんまりしたものにして、かつ全町会に呼びかけてミニ型の発災対応型防災訓練をその他の地域でしようということしました。ミニ型というのは、倒壊家屋などは作らずに、消火器集結訓練、応急救護だけをやる訓練です。向島の消防職員は200名もいませんし、消防団員を合わせても、77町会全部に行くとすると、1町会あたり4名くらいしか行けなくなります。ですから安全確保くらいのことしかできませんから、全町会ミニ型で行いました。その時に感じたことは、町会の方が「普段の日曜日に訓練をお願いします。」と来た時に、「いろいろな訓練が入っていていけません、人が出せません。」と言うと苦情がすぐくるのですが、この時は管内全域でやっていることを皆さん知っていますから、物理的に消防職員の数が少なくてもしょうがない、自分たちでやろうということでやってくれました。それに実際の震災でも職員は行けないわけです。よく話しますが、「向島消防署にはポンプ車は何台あるか知っていますか?」と問いますと、「何台ですかね。

6台ですか?」と。「じゃあ7番目の火事になったらどうしますか、ポンプ車はもう出られません。自分たちで消すしかないのですから、今回の訓練もうちの職員があまり出られないけれど、やってみましょう」と言いますと、やってくれることになります。同時多発型でやると、皆さんの考え方も変わってくるのかなと思いました。今年は3年目になりますが、秋の火災予防運動中の日曜日にやろうと思っています。玉の井という地名は結構有名だと思いますが、あそこも危険度でランク5です。危ない地域ですから、今年はそのを重点地域にして、やはり管内全域に声をかけて、その他は一般地区として、そこではミニ型の訓練をして、同時多発型で行いたいと思っています。

向島消防署では発災型を行っていますが、町会の防災訓練だけでなく、最近はその以外の仕事である自衛消防訓練にも応用しています。例えば自衛消防の指導に行きます。消火、避難訓練を見て、講評をお願いしますと言われて、皆さんの前に立ちますね。私はまず「皆さん、今立っているこの場所で、今、火事が起きたらどうしますか。一番近い消火器をすぐに持ってきて!」と言います。たくさん人数がいる場合は、誰が行けばいいかわからないから、胸に名札がついていればその人を指定します。「何とかさん、行ってきて!」。それが若い女の子だったりすると、「えー私ですか、いやだー」と言いながらも行ってくれます。見ている方は応援をします。「そっちじゃないよ、コピー室の方が近いよ」と言ってくれる人もいますし、自分の時計でタイマーを計って「もう30秒過ぎたよ」と言っている方もいます。そんな感じで消火訓練をしています。

あとは通報訓練も発災型でやっています。想定を書いたパネルを何枚か持っていきます。奥さんが天ぷらを揚げている時に電話をしている絵、バイクがガードレールにぶつかって倒れて血が出ている絵など。それを皆さんにパッパッと見せて、自分は前の人と違うことを言わなければいけません。今までは同じ訓練でしたか

ら緊張感がなかったんですが、かなり緊張してくれまして、「火事ですか、救急ですか」の問いの最初の「火事です」も出なかったりします。また 10 階建てのビルの絵を描いて、5 階から火が出ていて逃げ遅れが 6 階にいて手を振っている絵を見せます。そして、それを通報しますが、中には「5 階が火事です」で終わってしまう人もいます。そういう時は、6 階のベランダに逃げ遅れがいて手をふっているという情報も必ず伝えて下さいと言います。消防庁は最初に指令を受けた時点、電話の時点で、逃げ遅れがたくさんいるとわかれば、梯子車を多く出動させたりするので、最初の通報が大事ですから、なるべく皆さんの情報を伝えてくださいと話しています。そうした自衛消防訓練でも発災型で行っていますので、事業所も、事業所町会だと分けなくて、今度の発災型の訓練にも巻き込むことが大事だと思っています。事業所に屋内消火栓の指導に行きます。そうすると、だいたい消火栓を空操作で水を出さないで、廊下を延ばして終わりです。名前が屋内とついているから、皆さん屋内でしか使わないとイメージしてしまいがちですが、「この消火栓もホースをたくさんつないでいけば、屋外にも出ますよ。隣の家が火事、その隣でも届きますよ。」と話しています。発災対応型も会社と町会が合同でやれば、それぞれ広がったものになると思っています。

学校での防災訓練でも発災型の件や、地域危険度のことを話しています。例えばこないだは高校から避難の時の話をして下さいという要請が来ました。地震の時の避難です。電車が止まってしまうから歩いて帰るルート覚えましょうとか、上からの落下物に気をつけましょうとか、ブロック塀に注意しましょうとか、前はそれだけ話していましたが、ちょっと考えてみますと、高校生はあと 2~3 年で大人になります。体も大人ですから、もう大人と同じことを要望してもいいのかなと思いました。

その高校生に、「皆さん、在校生は何名ですか」と聞くと、5 百何十何名ですと言います。「そんなにいるんだ。消防職員と団員をあわせた数よりも多いんだね。ですから何かあったら皆さんはいろいろなことができるんだよね。ところで、みんな地域危険度は知っている？」と話を持っていきまして、「ここが危ない地域、その中で高校というのは一番安全な建物だから、絶対とはいえないけれど、みんなは大きな地震があっても軽傷か無傷でしょう。そんなあなた方は貴重な戦力なんだから、学校の門を出て帰ろうとしたら、地域にうめき声が聞こえるかもしれない。「助けて」の声が聞こえたら、やってあげてね。」ということと話してきました。そして、その後、先生と相談をして、普通救命講習を全員に受けてもらいました。普通救命講習というのは、消防署や外郭団体がやっております、3 時間かけて応急手当や心臓マッサージ、人工呼吸、止血を教えるコースです。それを全員に受けてもらっています。最近では中学生でもやってもらっていて、1 年くらい前に新聞にも出ましたが、「卒業式、もう 1 枚の卒業証書」というタイトルでした。中学を卒業する時に受けていただいて、卒業式に技能証と一緒に交付しています。

私は教育学部出身なので友人にも教師が多いのですが、消防署が時間をもらって学校に話に行ったり、訓練の呼びかけをするのはどう思うかと皆さんに本音を聞きますと、「良いことだと思うよ。」と言ってくれます。最近では学校も変わってきています。2002 年には学習指導要領も変わりますし、理科や社会が、低学年では、私たちが小さい頃にはなかった生活科に変わりました。総合的な教育をしよう、心を大切にする教育、命を大事にするとか、地域のつながりをもっと考えていこうと変わっていますから、そうした中で先生方も教育内容を試行錯誤をしているわけです。そこで、消防署が入って行って、訓練のお願いをしても、両方の思惑が一致していないのではないかと考えています。また保育園に地震の時の話をしに行った時のことですが、その時も驚き

がありました。先生は地震の時の避難のポイントを子供に話して下さいということでした。「みんなのおうちに新しい靴は置いてある？」と聞くと、だいたいの子供が「置いてあるよ。すぐに足が大きくなっちゃうから1センチ大きいのか、バザーでお母さんが買ったのが置いてある」と言います。靴箱にあるというから、「それをみんなの寝る部屋に置いてくれるかな。地震の時、家の中もガラスが落ちていて危ないから、それを履いて避難しようね」と話していました。子供たちが「それ以外に僕たちは何ができる？」と言ってくれて、すごく驚きました。私は子供は守ってあげる存在だと思っていましたが、たしかに言われてみると、大きな地震が来ても無事であれば、その子は小さな戦力なわけです。ですから頼んだことは、親が近所の生き埋めの人を助けてあげていたら、その時はもっと小さな子を面倒みてあげるとか。

例えば生き埋めの人は何時間も何日も土の中にいるんだよと話す、「モグラさんみたいだね」と言います。「じゃあ、モグラさんは絵本ではどんな絵で描かれている？」と聞くと、「サングラスが描いてあるよね。」って。「生き埋めの人もモグラさんと同じ状態だから助け出されて出てきたら、日光がパッとあたると目がやられちゃうんだ。だから君達ができることはタオルをもって側にいてあげて、大人が助け出したら、せめて目にタオルをかけてあげるとか、お水と言ったらお水をあげようとか、そんなことはできるよね」と言うと、「できる」「やれる」と言ってくれます。子供だからって守るだけではいけないんだと、私の方が再認識させられた出来事でした。

私がかこ向島消防署に勤務していてラッキーだと思ったことは、消防署の実践的な訓練をしていこうという方針と自分がやりたいことがとても合っていたことです。やはり組織にいれば、自分の考えと違った仕事もしなければいけない時もあると思いますが、本当に同じ考えでしたので仕事がやりやすかったのです。なぜ私本人が個人的に実践的な訓練を模索していたかと申しますと、一つ例を出しますね。私も地域では一主婦また母親として地元の訓練に参加しています。子供の引き取り訓練が小学校であり、毎年9月の第一土曜日に地震が来たから引き取りに来なさいという訓練があるのです。それで時間になると行きますが、やることは先生が出席簿を見て、子供の名前を呼んで、親は「ハイ」と返事をして、手をつないで帰ってくるだけなんです。ですから、親が来られない子はポツンと残っています。それもかわいそうですし、その訓練には何の意味があるのかと考えました。訓練とは、やってみて、始まる前と後で自分の力が高まっていないと駄目なわけです。防災行動力が全然高まらない訓練は意味がないと思っていたところ、先生がタイミングよくアンケートを配ってくれました。今日の訓練について意見を書いて下さいと。曜日は土曜日でいいですか、9月でいいですかという簡単なものでしたが、最後に自由意見を書いて下さいという欄がありました。ほんの2~3センチの欄でしたので、普通の方は書かないと思いますが、私は家に帰ってワープロでたくさん打ちまして、そのアンケートには別添参照と記入して、いろいろ添付書類を書きました。その中に、こうした引き取り訓練は学校だけでやってもあまり意味がないと書きました。いま帰宅難民の問題も騒がれていまして、うちの町でもお父さんお母さんは東京に勤めている方が多いんです。帰ってこられない方、あるいは専業主婦でも買い物に行って帰って来られない方はどうしたらいいですか。そうしたことを全部含めた訓練をするには、学校だけでは駄目です。帰宅難民の子供を預かるのは例えば図書館や公民館などとあらかじめプランをたてて、そこには役場の厚生課や児童課の方が行くとか。また、私は阪神淡路の後に神戸の学校を見にいったことがあります。学校は天井も高く災害弱者には環境はとてもよくないと思いました。その当時、私的なことですが、子供を保育園に預

けていましたので、施設面での違いがよくわかりました。階段のステップも保育園の方が低いし、手すりも両側についていたり、子供が昼寝をするので必ず布団があって、沐浴をするためにシャワーがあります。こうした優しい施設は体が弱い人や老人用にして、同じ避難所でも弱者と健康な方に分けて、かつ帰宅難民の子を預る施設と三つくらい作った方がいいんじゃないのでしょうか。そうした訓練なら、すぐに帰れなかったお父さんお母さんは公民館に迎えに行けばいいのです。学校に要望するのは筋違いかもしれないですが、地震時の避難計画や訓練は町全体でトータルで考えていただかないと実践的ではないと思うと書いてしまいました。

たぶん、口うるさい親と思われると思いますが、自分は一市民としてはそういったことは権利として主張してもいいと思っています。ですから、逆に制服を着て署に出た時は、普段は権利を主張しているわけですから、今度は義務を履行しなければなりません。向島消防署管内の方がもっといい訓練をたくさんしたい、実践的な訓練をしたいと言えば、それに対応していかねばならないと思っております。

最後になりますが、誤解を招くといけないので断っておこうと思いましたが、向島消防署は集合型訓練を決して否定しているわけではないということです。集合型訓練は復習として使うにはとてもいい訓練ですし、集合型と発災型で双方無いところを補う形でやればと思っております。無いところを補うといっても、具体的にどういうことという方もおられると思いますので、自分の家の例を参考に紹介したいと思います。

話は飛びますが、うちの子供は小学生です。この夏休みに算数のドリルの宿題がありました。最初の方はわり算、かけ算など基本問題で、「面倒くさい、やりたくない」と全然手をつけませんでした。

でも、最後の方に応用問題があって、そちらは結構楽しそうでした。花子さんと太郎くんのお金を何倍かずつ合わせたらゲームを買えますかという感じです。おもしろそうだから、これならやるからと、途中のページから始めました。ですが、式はできましたが、計算をしてみると、2桁かける2桁のかけ算で、彼の間違いパターンが見えてきました。末尾に0があれば省略をして、最後の答えに0を書き足しますが、それを忘れてしまいます。君の悪い点、弱点はここだよと言うと、そうか、基本問題もやってみるかということで、基本問題もやってくれたわけです。ですから、大人も子供も基本的なことをしなければいけないことに対して、動機付け、モチベーションが上がった時にやれば、マンネリ化しているとか、いろいろ言われていますが、やってくれると思います。よって、向島消防署の昨年形の形のように発災型を行って、その後復習として集合型を行うこともいいと思いますし、また町会によっては事情がいろいろありますから、今回は発災対応型を行って、次の機会は集合型を行うというふうに1年間でローテーションをしていくこともいいのではないかと考えています。

最後にまとめとして「発災対応型防災訓練を活かして、町会の方が消火活動をした功労」（資料9）、署長が感謝状を出した例をあげました。いま7個書いてあります。この原稿の締切がつい1ヶ月前でしたので1ヶ月前にしめましたが、最近も2件の火災がありまして、2件とも町会の方が頑張って消火してくれました。ですから、発災型を行ってから9件の表彰をしています。この町会すべてに話を聞きにいきましたら、驚くほど、この訓練で活躍した方は発災対応型防災訓練の時にもリーダーとなってやってくれた人たちであることがわかりました。レジュメにも書きましたが、町会の方で、「最初はバケツリレー訓練もやる気がなかった。」と言っていた方もいました。「戦争中じゃあるまいし、役に立つのかなと思って訓練をしたけれど、実際に本当の火事で役に立って助かった、ありがとう。」と言ってくれた方もいました。私は大変よかったと思っております。

向島消防署では、私以外でも全員が発災型について話すことができます。なぜ今日は私が来たかと言いますと、たまたま誰でもよかったのですが、3年間この係をしていたのが私一人だけだったからです。例えば今日の午前中の講演の話の中で有珠山に行った例もありましたが、向島消防署も耐熱救援車があるから有珠山、三宅島に行きました。そこに行った隊員に話を聞きますと、現場で北海道の方に発災型は何ですかと聞かれて、その場でレクチャーしてきて、あとでビデオを送ったと話していました。

あと、今日、上司に言われてきましたことは、私の力量不足による説明不足は上司が補ってくれるということでした。それぞれお立場によって質問事項も違うと思います。管理職の方は、うちの署長あるいは課長に電話していただければ、全部お答えしますので、遠慮なさらずにお電話ください。向島消防署の電話番号は別添資料4のチラシの下の方に書いてあります。今日は至らない点がたくさんあったと思いますが、質問・ご意見等がございましたら、どうぞご連絡ください。今日は90分と長い時間でしたが、ご静聴ありがとうございました。(終了)



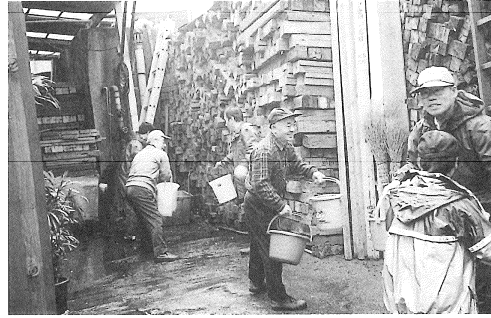
①



⑤



②



⑥



③



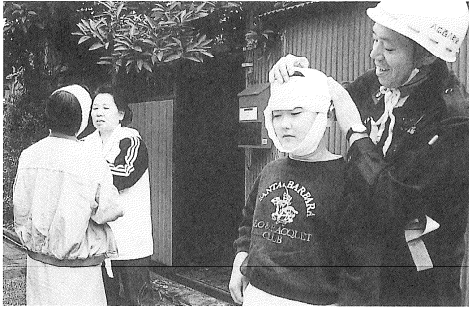
⑦



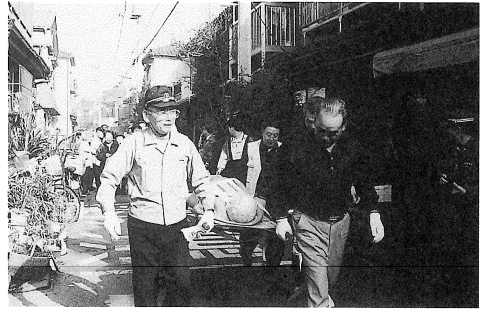
④



⑧



9



13



10



14



11



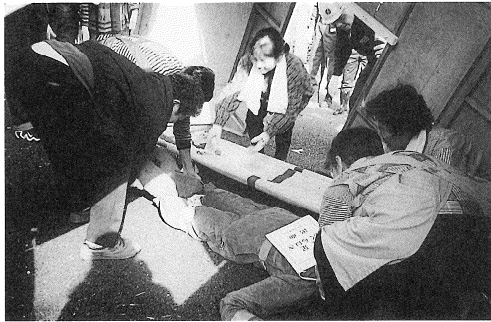
15



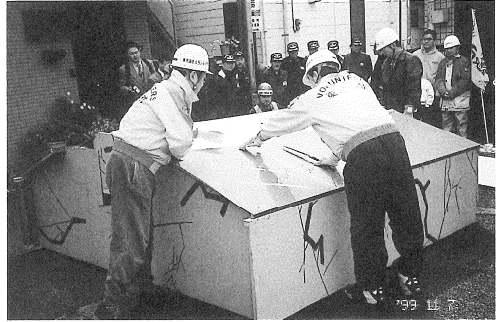
12



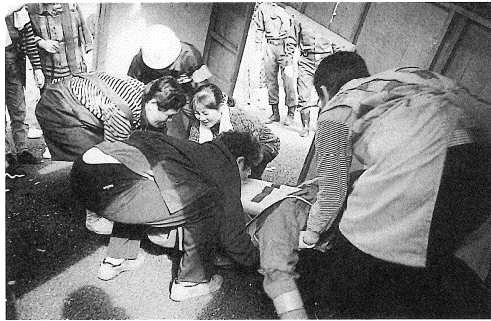
16



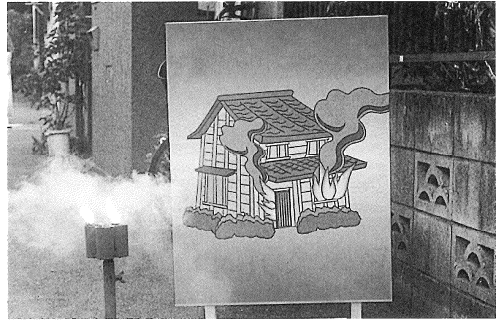
17



21



18



22



19



23



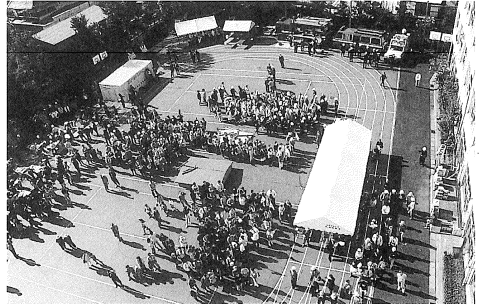
20



38



25



28



26



29



27



30

資料1

東京都地域危険度測定調査結果

1 調査の根拠

東京都震災予防条例第17条に基づき、概ね5年ごとに地域の危険度を測定しその結果を都民に公表する。

2 測定調査対象

23区30市町村の5,080町丁目

3 測定項目

① 単独の危険度（4種類を測定）

「建物倒壊危険度」、「火災危険度」、「人的危険度」、「避難危険度」

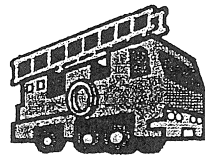
② 総合危険度

上記4種類を総合化した危険度で、1から5までの5段階評価とした。

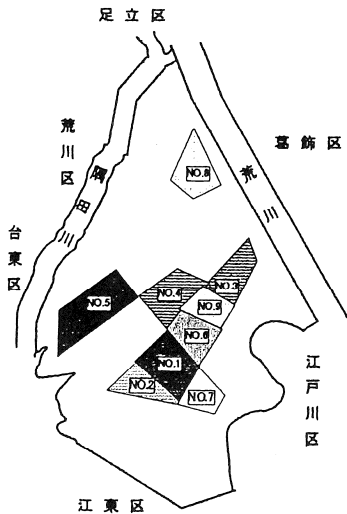
4 測定結果の抜粋

総合危険度ランク5（最悪の評価）の地域は次のとおり

- ① 東京都内 83町丁目
- ② 墨田区内 11町丁目
- ③ 向島消防署管内 9町丁目



※この9町丁目を管内地図で表すと下記ようになります。



	都内ワースト順位	危険地区町丁目名	発災対応型防災訓練実施状況
No.1	1位	京島三丁目	平成10年度重点地域
No.2	2位	京島二丁目	平成10年度重点地域
No.3	10位	八広四丁目	平成11年度重点地域
No.4	16位	八広一丁目	平成11年度重点地域
No.5	26位	東向島二丁目	
No.6	33位	八広二丁目	
No.7	34位	文化三丁目	
No.8	56位	墨田三丁目	平成12年度重点地域
No.9	65位	八広三丁目	

※「管内77町会すべてが、昨年ミニ型の発災対応型防災訓練を実施しました。」

私達の街の一部地域が、「地震の際に最も危ない地域」という評価を受けてしまいました。しかし、それは見方を変えれば、「関東大震災にも戦災にも耐え抜いた証」なのです。祖父母・父母の代に守っていただいたこの街を、今度は私達が守っていきましょう。ハード面で足りないものは、ソフト面で補い、「東京で一番危ない地域」を「東京で一番防災行動力の高い街」に変えていきましょう。

私達消防隊員もたくさんの訓練を積んで、有事に備えます。地域の皆様、一様に頑張ります。



資料 2

発災対応型防災訓練の特徴

- 1 住民自らが防災訓練の企画・立案をすることができる。
- 2 街のあちこちに、けが人や火災の発生場所をつくるので、街全体が舞台となる。
- 3 訓練実施場所は、住民達が普段生活している街の中なので、「わざわざ訓練会場へ足を運ぶのが面倒である。」と思っていた方の訓練参加が見込まれる。また、買物・洗濯干し等の日常の家事をしている最中に発災の合図が聞こえる訳なので、「何かしら」と外へ出た方の飛び入りの参加も可能である。
- 4 訓練資器材は、自宅設置や街頭の消火器、個人の救急箱等の身近なものである所以実践的であり、かつ、防災用品の点検も兼ねられる訓練である。
- 5 町会役員等の関係者以外は、当日の火点やけが人発生場所、倒壊家屋設定現場を知らない所以、震災直後さながらの実戦的な訓練となる。
- 6 通行障害による迂回避難訓練や、自分が不案内の地域での消火器集結訓練等、臨機応変な判断が要求される訓練である。

発災対応型防災訓練

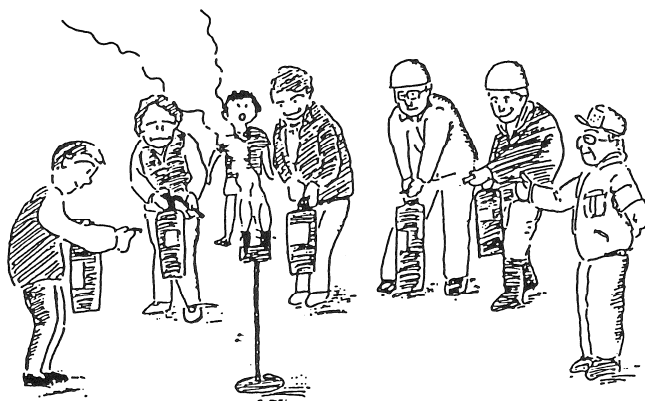
—初期消火編—

皆様はお料理番組をご覧になりますか？調味料や道具があらかじめ揃っていますので番組はスムーズに流れますが、実際ご家庭で始めるとそうは簡単にいきませんよね。

防災訓練も同じです。公園に集まり、消防署が用意した消火器で火を消す訓練を何度も繰り返して、消火器の扱い方は理解できても、実際の時には使えない方がいます。なぜなら「だれも消火器を準備してはくれないから!」です。

今度の訓練は実践的です。自分の住む街中で、自分が集めてきた消火器で火を消しましょう。火災の起こる想定場所はその日まで分かりません。もしかしたら、あなたの家の玄関先かも…

町会の皆様で一致協力して、消火訓練を成功させましょう。



初期消火編以外に、震災時に多発するけが人の処置を行う応急救護編や、簡易救助資器材を使って倒壊家屋からの救出を行う救出救護編があります。それらをミックスして行うこともできます。各種訓練を行い防災行動力を高めましょう。

発災対応型防災訓練

—応急救護編—

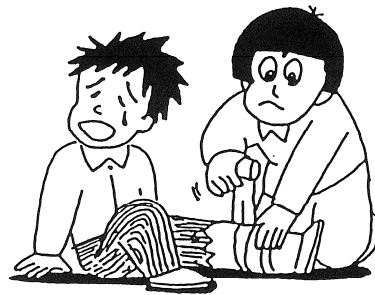
皆様は、阪神淡路大震災直後の被災地の映像を覚えていますか。街のあちこちから負傷者のうめき声が聞こえていました。

同じ状況が皆様の街で起った時を想像してみてください。隣のおばさんが落ちてきた瓦で頭を怪我しています。お向かいのおじいさんはガラスで腕を切ってしまったようです。倒れてきた自動販売機で足の骨を折ってしまった人もいます。

同時多発的に負傷者が出てしまった場合、幸いにも無傷あるいは軽傷だったあなたは貴重な戦力です。応急手当ができれば、たくさんの方の止血や感染防止等をしてあげることができます。

今度の訓練は、いつもの集会所で行う応急救護訓練とは違います。発災の合図で自宅の安全を確認したら、外へ出てください。道路上や空き地に怪我人の方が倒れています。まず近づいて声をかけてあげてください。様子をよく観察してください。そしてその方の症状にあった応急手当てをしてあげてください。最初からうまくできるはずはありません。失敗しても構いません。三角巾ができなくても、きれいなハンカチで傷口を押さえてあげるだけでも効果はあります。また、励ましの声をかけ続けてあげるだけでもだいぶ違います。

日頃の訓練は必ず、有事の際に活かされます。



応急救護編以外に、想定火点に消火器を集めてくる初期消火編や、簡易救助資器材を使って倒壊家屋からの救出を行う救出救護編があります。それらをミックスして行うこともできます。各種訓練を行い防災行動力を高めましょう。

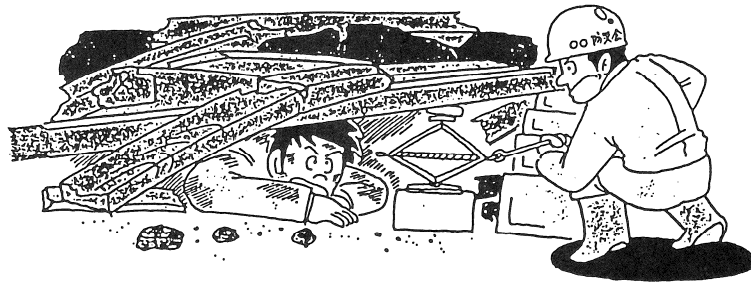
発災対応型防災訓練

—救出救護編—

皆様の町会には、バールやジャッキ等の救出救護機材が配置されているのを、ご存知ですか？阪神淡路大震災では、倒壊家屋の下に人が閉じ込められていても、機材が無いので救出できないという例が数多くありました。墨田区ではそれを教訓とし、各町会に救出機材を配置しましたが、その保管場所、使用方法是町会の方全員が知っておく必要があります。

今回の訓練では、廃材やブロックを積み重ねて、模擬倒壊家屋現場をつくります。皆様は救助機材等を活用して、中に閉じ込められていた人（ダミー）を何人かで救出します。その時、決して無理はしないで、崩れ防止に注意してください。作業の最中は生存者に対して声をかけ続け、安心感を与えてあげてください。

この訓練は、発災対応型防災訓練の仕上げともいえる訓練です。町会の皆様が団結して行わないと実現は不可能です。町会に皆様、一致協力して、救出訓練を成功させましょう。



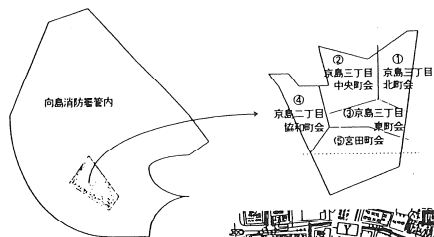
救出救護編以外に、想定火点に消火器を集めてくる初期消火編や、震災時に多発するけが人の処置を行う応急救護編があります。それらをミックスして行うこともできます。各種訓練を行い防災行動力を高めましょう。

発災対応型防災訓練想定表

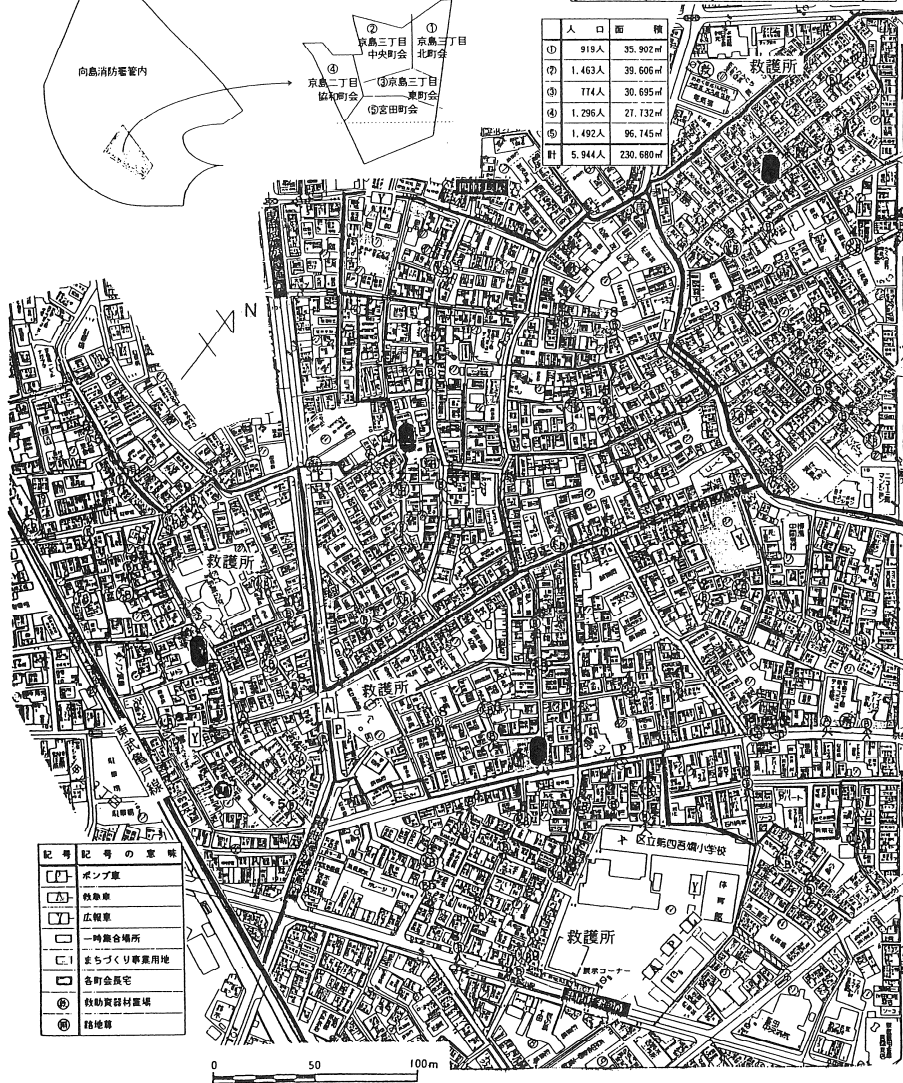
—平成10年11月3日—

(発災対応型防災訓練 9 : 0 0 発災)

記号	車数名	車数内容	町会名				計
			第三区	三中央	第三警	稲和	
●	火点 A	噴火*11 火点	1	1	1	0	4
●	火点 B	噴火*14 噴火*15 火点	8	8	7	9	10
○	避難要請	救出救助活動	1	1	1	0	4
○	ケガ人 A	歩行不可助14人	1	1	1	1	5
○	ケガ人 B	歩行可能14人	8	8	9	10	4.3
〰	通行障害	通行止め	1	1	1	1	5
計			20	20	19	22	103



人口	面積	種別
①	918人	35,902㎡
②	1,463人	39,606㎡
③	774人	30,695㎡
④	1,296人	27,132㎡
⑤	1,492人	96,145㎡
計	5,944人	230,680㎡



発災対応型防災訓練の概要

町会役員等の訓練企画者	時 間	訓 練 参 加 者
<p>訓練開始の合図をする。 (例 サイレン吹鳴・爆竹等)</p>	<p>発災時間 10:00</p>	<p>家庭・職場内で</p> <ul style="list-style-type: none"> ・身体防護訓練 ・電気のブレーカーを切り、ガスの元栓をしめる。 <p>避難グッズを携帯し、施錠後一時集合場所を目指す。</p>
<p>以下の想定被害を準備する。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・カーフライヤー（注1）を焚いて多数の火点の表示をする。 (空き地等の広い場所があれば、オイルパンを用いて臨場感を高め、バケツリレー等の標的にする。) ・けがの部位・程度を表示した多数のけが人を街中に発生させる。 (歩行不能としたけが人には必ず企画者サイドの者が付き添い、事故防止のために担架には乗らないように監視する。傍に人形等を置いておき、生身の人間に応急救護を施した後、入れ換える。) <p>模擬の倒壊家屋を数カ所発生させる。廃材の下にはダミー（人形）を置いておく。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・迂回パネルを設置する。 (建物倒壊や道路陥没等を図で表したパネルを設置し、その場所には誘導人員を配置する。) 	<p>数分後</p> <p>↑</p> <p>こ</p> <p>の</p> <p>間</p> <p>約</p> <p>30</p> <p>分</p> <p>↓</p>	<p>自宅から一時集合場所間で遭遇する訓練事象に対応する。 (参加者は当日までは火点やけが人発生場所等の想定を知らない。)</p> <ul style="list-style-type: none"> ・<u>火災の場所に遭遇したら</u> 街頭設置や自宅の消火器を集めてくる。それを20秒間、火元に向けて構えることにより、1本の消火器が有効に使用されたことにする。1火点に5本の消火器が集まれば、その火点の消火は成功したと見なされる。 ・<u>ポリバケツの設置場所に遭遇したら</u> 水バケツリレーを行い、一定時間に一定の水を集める。 ・<u>けが人発生場所に遭遇したら</u> けがの部位・程度に応じた応急手当てを行い、一緒に一時集合場所まで移動する。受傷部位表示カードに「歩行不能」と表示されていれば、町会所有の担架か竹竿と毛布を使った応急担架を作成する。 ・<u>倒壊家屋現場に遭遇したら</u> 区役所から配置されている救助資器材を使って、がれきの下の人形を救出する。 ・<u>迂回パネルに遭遇したら</u> 一時集合場所までのルートを日常導線とは違ったルートに変更する。

資料 8

向島消防署管内の発災対応型防災訓練実施の経過

実施日時	実施地域	参加者数	その他
1998.11. 3 (祝日)	京島文花連合町会 (2,600世帯) (230,680㎡) *訓練想定場所は別添え資料2のとおり	838名	初めての試みであるので、住民説得に4ヶ月を要した。
1999.11. 7 (日曜日)	管内全域に呼びかけ、39町会が実施	約6,000名	地域危険度測定調査結果に関わらず、管内全域で発災対応型防災訓練を実施すると同時に、結果の悪い地域内では特に重点を置いた訓練を行った。(同時多発一部地域重点型と命名し、この年の重点地域は八広4丁目とした。)
2000.11.12 (秋の火災予防運動 週間中の日曜日)	現在、管内全域79町会に呼びかけている	未定	玉の井町会を重点とした、同時多発一部地域重点型で行う予定

資料9

「発災対応型防災訓練」を活かした
一町会・町会員等の消火活動功労について

消火活動功労町会等

- 曳舟中町会員
発災日時 平成11年2月1日(月) 2時22分頃
発災地 墨田区東向島二丁目
焼損程度 2棟 50㎡全焼 ぼや1棟
近隣住民13名が、消火器7本を使用したり、バケツリレー及びゴムホースを延長しての積極的な初期消火を行った。
- 京島南町会員
発災日時 平成11年6月2日(水) 21時48分頃
発災地 墨田区京島三丁目
焼損程度 ぼや1棟
隣接のマンション居住者8名が、消火器や風呂の残り湯をバケツリレーして、マンション3階通路部分から火の吹き出ている窓に投水して初期消火を行った。
- 京島三丁目北町会員
発災日時 平成11年11月14日(日) 3時5分頃
発災地 墨田区京島三丁目
焼損程度 2棟 74㎡焼損
近隣住民や発見者12名が、風呂の残り湯や水道水によるバケツリレー、自宅や街頭設置の消火器を使用して適切な初期消火を行った。
- 押上三丁目伸成町会員
発災日時 平成12年1月5日(水) 0時20分頃
発災地 墨田区押上三丁目
焼損程度 3棟(全焼1・部分焼2棟) 27㎡
近隣の町会員約20数名が火災現場に駆けつけ、逃げ遅れた人を救出するとともに、街頭設置の消火器やバケツリレーによる適切な初期消火を行い隣棟への類焼を抑えた適切な初期消火を行った。
- 梅若町会員
発災日時 平成12年5月8日(水) 1時42分頃
発災地 墨田区墨田二丁目
焼損程度 オーバイ・ガラス戸若干(部分焼)
近隣の町会員7名が、自宅や街頭設置の消火器7本を使用し、消火にあたりとともにバケツ等によるバケツリレーにより適切な初期消火を行った。
- 宮田町会員
発災日時 平成12年5月31日(水) 11時54分頃
発災地 墨田区文花三丁目
焼損程度 1棟 1.7㎡(部分焼)
近隣の町会員や地元企業の従業員等18名が、火災現場に駆けつけ、工事場のバケツ等によるバケツリレーや街頭設置の消火器を使用して適切な初期消火を行った。
- 京島南町会員
発災日時 平成12年6月5日(月) 11時03分頃
発災地 墨田区京島三丁目
焼損程度 1棟 5㎡(部分焼)
近隣の町会員7名が協力して、早い火災通報や街頭消火器5本を使用して適切な初期消火を行い、被害を最小限に止めた。